

< 3月29日 家庭礼拝の手引き >

本日は、以下のプログラムで家庭礼拝を捧げましょう。

インターネットに接続できる方は、11時に開始する牧師の説教などをライブ配信（生放送）で見ながら礼拝を捧げることもできます。出席はできません。

1. 礼拝の進め方

礼拝プログラムは次の通りです。このプログラムに沿って、賛美を捧げ、祈り、聖書を読みましょう。説教の部分は、説教要旨を読みましょう。

2. 礼拝プログラム

招 詞 詩編 90 編 1-2 節

賛 美 歌 新生 89 ここに愛がある

主 の 祈 り

感謝の祈り

聖 書 テサロニケ I 5 章 12-24 節(新 378 頁)

メッセージ 「いつも喜んでいなさい」

説教要旨を読みましょう

祈 禱

祈りの課題を読み祈りましょう

賛 美 歌 新生 464 主が来られて 呼んでおられる

黙 禱

3. 祈りの課題

- 新型コロナウイルスの感染が収束し、苦しみと不安の中にある人が守られるように。安心して通常の礼拝を捧げることができますように
- 教会員、教会に連なる方々が、それぞれのご家庭で家庭礼拝を捧げ、信仰と愛と一致が守られるように
- レントの期間にあたり、主がわたしたちのために苦難を受けられたことを覚えて。主の復活を喜び、イースターを迎えることができるように
- 日本、中国、韓国をはじめ全国で感染に苦しむ人々のために。全世界の教会の礼拝のために
- 教会に連なるご高齢の方、お一人暮らしの方、施設に入所されている方のために
- 来週、4月5日から受難週。シュロの日曜日を覚えて

4. 説教要旨

テサロニケの教会の人々は、“イエスを救い主と信じるだけでなく、愛のために労苦し、希望をもって忍耐する”者となっていました。パウロはこれを喜び、“主イエスが再び来られる時には、全てのことが明らかにされ、悪が減びイエスの愛と救いが支配する。イエスさまの前に立った時、恥じ入るようなことのないように、今の時を、忍耐をもって生きるように”勧めました。5章9節「神は、わたしたちを怒りに定められたのではなく、わたしたちの主イエス・キリストによる救

いにあずからせるように定められたのです」。再臨の主と会うことは恐怖でなく、喜びです。既に、わたしたちはイエスの救いにあずかる者と定められたのです。だから、5章8節「信仰と愛を胸当てとして付け、救いの希望を兜としてかぶり、身を慎んでいましょう」と励ましています。

今日の聖書箇所は、これに続いて勧告をしている箇所です。この一つ一つの勧めの言葉を読むと、身に覚えのあることばかりです。

“あなたがたの間で労苦し、導き戒めている人々を重んじ、愛をもって心から尊敬しなさい”

→ 具体的に、わたしに関わることとして想像しながら噛みしめていきましょう。

“互いに平和に過ごしなさい”

→ すぐに熱くなって戦闘的になったり、平和を壊していないでしょうか。

“怠けている者たちを戒めなさい”

→ 自分は怠けていないだろうか、また戒める時に戒めることが出来ているだろうか。

“気落ちしている者たちを励ましなさい”

→ 気落ちしている人がいることが見えているだろうか、励ましているだろうか。

“弱い者たちを助けなさい”

→ 弱い者たちが見えているだろうか。助けるために手を伸ばしているだろうか。

“すべての人に対して忍耐強く接しなさい”

→ 自分に気が合う人だけでなく、自分が嫌いな人、全ての人に忍耐しているだろうか。

“悪をもって悪に報いることのないように”

→ 相手の土俵に乗って、やられたらやり返さないと気が済まないと思っていないだろうか。

“すべての人に対して、いつも善をおこなうように”

→ どのような人に対しても、善をおこなっているだろうか。

そして、16節「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい」。喜べず、祈れず、感謝できないことがあります。しかしパウロは「これこそ、キリスト・イエスにおいて、神があなたがたに望んでおられることです（18節）」と勧めました。大事なのです。

この手紙は、パウロの愛が満ちあふれています。2章8節「あなたがたをいとおしく思っていた」、2章8節「あなたがたはわたしたちにとって愛する者となった」、その思いが伝わってきます。その手紙の結びとして、パウロは、主の御前に立つ時に聖なる者となるようにと、勧めました。5章8節「信仰と愛を胸当てとして着け、救いの希望を兜としてかぶり、身を慎んでいましょう」。その具体的な行為が、先ほどの一つひとつの勧めとなっていると読ませていただきました。

“あなたがたの間で労苦し、導き戒めている人々を重んじ、愛をもって心から尊敬しなさい”

“互いに平和に過ごしなさい” “怠けている者たちを戒めなさい” “気落ちしている者たちを励ましなさい” “弱い者たちを助けなさい” “すべての人に対して忍耐強く接しなさい” “悪をもって悪に報いることのないように” “すべての人に対して、いつも善をおこなうように” “いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい”

これこそ、神があなたがたに望んでいることです。“信仰と愛を胸当てとして着け、救いの希望を兜としてかぶり、身を慎んでいく”生き方なのです。